

歴史地区における建築設計と デザインマネジメント

〈もの〉づくりにも〈まち〉づくりにも関わる建築技術者集団だからこそ、「歴史地区の修景」に積極的に関わるように主導していきたい。

(社)日本建築士会連合会 副会長 小黒利昭

11月7日、建築会館（東京・三田）にて日本建築士会連合会後援による講演会が開催された（主催：京都女子大学家政学部斎藤英俊研究室）。ヨーロッパ・アジア地区における「歴史地区のデザインコントロール」の研究・調査・指導に関する7人のパネラーによる報告事例とディスカッションが行われた。

主催者の斎藤教授は、「埋め込み建築にはアーキテクトの創造性を発揮する必要性があり、4年間の科学研究費を得て、歴史地区における『修景』をどのようにやっていけばよいのかを探っていききたい。修景には、①全体との調和、②オリジナルである部分での区別、③歴史的客観性が大事であり、その上で質の高い建築がなされているか、デザインの質が重要です」と話した。

藤本昌也会長は、「今回参加させていただいたことで、アーキテクトがこうしたシンポジウムを通して、歴史地区における建築設計とマネジメントについて、もっとまちに向けて、地域における建築とはどうということかを学ぶことになると思います。

建築界において、まちづくり・設計・構造・設備施工・木造・生産・行政・教育という建築に関わるほぼ全領域にわたる技術者集団が建築士会連合会であり、幅広い分野を網羅しているのも、伝統というわが国特有の生産システムがあるからです。

建築士の地域における理念としては、①地域社会が共有する建築資産・社会資産を維持する、②地域固有の条件に照らし合わせて建築する、の2点が挙げられます。これまでのように、クライアントに向き合い、敷地の中だけで建築を考えるだけでなく、われわれ、〈もの〉づくりにも〈まち〉づくりにも関わる建築技術者集団の団体だからこそ積極的に地域に寄与すべきだ

と思います。これが私たちがこのシンポジウムに参加する大きな理由です」と述べた。



●藤本昌也会長の講演風景

最後に藤本会長は、歴史地区に積極的に関わり活動している兵庫県建築士会を紹介し、「県の要請により2001年から歴史的建造物を保存し、まちづくりに活かす能力を持ったヘリテージマネージャー（歴史的遺産活用推進員）を育成し、活動を支援しています（2009年まで受講者数222人の9割が修了し、県に登録）。

現在、地域に根ざした建築・まちづくりに関わる建築技術者集団を統括するコミュニティアーキテクトを養成・推進に向け、研究会で勉強会を開催し、来年から積極的に取り込もうと準備していますが、今回、このシンポジウムの歴史地区におけるデザインとマネジメントも大きな有望な建築士の領域と考えます。今後も協力体制のもと、共に取り組んで参ります」と話した。

参加したパネラーも5カ国7人と国際色豊か。ジークフリート・エンダース（ドイツ・元ヘッセン州文化財保護局保存建築家）、パオラ・ファリーニ（ローマ大学教授）、胡昊（上海交通大学管理学院教授）、金珠也（金泉科学技術大学准教授）、ヨハネス・ウイドド（シンガポール大学教授）、孙旭光（金島理工大学建筑学院副教授）がそれぞれ今後の課題を含めて講演をした。

コミュニティアーキテクト（CA）とは、まちづくりの担い手である地域住民を「行

政」と共にサポートする「専門家」の存在が不可欠ということから、その役割を果たす「統括建築士」をCAという名称で、今後の建築士会連合会の大きな柱の一つになるものとして位置づけられている。

パネリストには、UIA2011東京大会で、日本建築士会連合会が支援事業として9月27日に開催する「コミュニティアーキテクトシンポジウム」に出席する吉良森子氏と北尾靖雅氏の姿もあった。

建築家の吉良氏は2004年からオランダ・アムステルダム市の第1環境委員会の委員を務め、今年は委員長である。「アムステルダムの景観委員会の仕組み・背景・審査」と題し、6年間の経験をもとに審査のプロセスを説明。「審査では周辺と調和しながらも現代性と歴史性が重層し、ディテールまできめ細かくデザインされているプロジェクトへと誘導することが一番重要です。建築を設計する者にとって一つの建物でできることは限られています。近隣やまち全体とクオリティと繋がってこそ地区全体の空間的、社会的、不動産的価値を持続し、高めていくことができます」と話した。



●吉良森子氏の講演風景

京都女子大学准教授の北尾氏は、ドイツの地方小都市の建築デザインの実態調査を紹介。「タウンアーキテクトが建築デザインのコーディネーションに深く関与し、30年間にわたって市当局と契約を結んで歴史地区の環境形成の役割を担ってきた。タウンアーキテクトが携わったことによって、デザインコントロールが長い期間調和できたのがポイントではないか。日本でもデザインコードは一律には決められないが、地方の現況に応じてデザインコードをつくって運用するためにも、CAのような人たちの役割が非常に重要になってくるのではないか。根本の問題は、デザインコードとして都市構造まで考えていく必要があるのではないか」と、問題点も最後に投げかけた。